

日刊 動労千葉

81.2.20

No. 663

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(電話)二九三五、六・八(夜)三三三二、七二〇七

助役機関士導入阻止 線見訓練を粉碎

才1日目(2/19)の闘い

線見訓練に積極的に協力する本部土屋派を許すな!

全組合員の皆さん。
昨日の成田・佐倉における助役機関士線見訓練阻止の闘いは、怒りにもえた総決起をもってかちとられ、成田において線見実力阻止をかちとった。

当局の意図した助役機関士の線見訓練を実力で阻止する

成田運転区

6時30分結集という早朝動員にもかかわらず、成田支部をはじめ、津田沼・千葉転両支部からの動員者約60名が続々と到着。

助役機関士が予定の訓練列車に乗り込もうとして、成田駅三番線ホームにあらわれる。

動労千葉の動員者はただちにスクラムを組んで対峙。当局は、再三、助役機関士の線見乗務を強行せんとして動労千葉のピケに突入をこころみる。が、わが動労千葉の闘り意気込みと気迫の前に、完全に粉碎されてしまったのである。そして助役機関士の線見を実力で阻止したのである。

線見訓練に積極的に協力する

「本部」土屋一派

佐倉機関区

佐倉においても、前夜からとまり込んでいた佐倉支部の役員・活動家をはじめ各支部からの動員者約八〇名が結集時間の6時30分ごろには庁舎前に集結。

乱闘服すがたの公安が機関区構内をはいかしている。ただちに国鉄当局に抗議し、公安を構外に退去させる。

七時三五分、最初の訓練列車に乗り込もうとして二階講習室から助役機関士五名を白腕章の局課員が囲むようにして機関車下に到着。わが動労千葉の動員者がそれを取り囲み、激しく糾弾する。

マイクを握った区長は、おろおろするばかりで「道をあけてくれ」という声もかすれがち。最初の訓練列車を運転する機関士は、「本部」派の組合員。

「本部」派の土屋・鈴木(正広)などは、機関区に来てはいたが、線見訓練阻止の行動を取るところか、逆に積極的に当局に協力するためにのみ来ていたのである。

わが動員者の激しい追及・糾弾の前に彼らは、全く正当にも何んら反論することが出来なかつた。



大量の白腕章(局課員)にとり囲まれ強引に乗りこむ助役機関士を激しく追及・糾弾。(今日、佐倉機関区)

のである。そして、動労千葉の線見阻止行動をしりぬに、「本部」派機関士は、動労「本部」土屋一派の裏切りの指導によって、何の抵抗もなくやすやすと機関車に助役機関士を乗り込ませてしまったのである。

こうして、2本の訓練列車の機関士は、「本部」派の機関士であったため、わが動労千葉の阻止行動の展開にもかかわらず、助役機関士の乗務をゆるしてしまつたのであつた。

「本部」反動分子と結託した土屋一派の裏切りと積極的協力に対し、われわれは、改めて激しい怒りを込めて追及・糾弾しなければならぬ。

さらに、ジェット燃料輸送用機関車の検修を一手に行なっている佐倉支部(非乗務員)の減産闘争は、一月闘争を上廻る闘いとして断固闘い抜かれた。

才一日目の成果を引きつぎ、一週間闘争を貫徹せよ

成田・佐倉支部における闘いを中心として、全支部・全線区での減産闘争も全組合員の怒りの総決起によって敢然と闘い抜かれたのである。

こうした第一日目の成果と教訓を引きつぎ、線見訓練阻止一週間闘争を断固貫徹しよう。

そして、闘う全国の労働者・人民と連帯し、国鉄当局・権力・「本部」反動分子一体となつた反動と敵対を粉碎し、三月ストライキの爆発をかちとり、八一春闘の突破口としよう。